

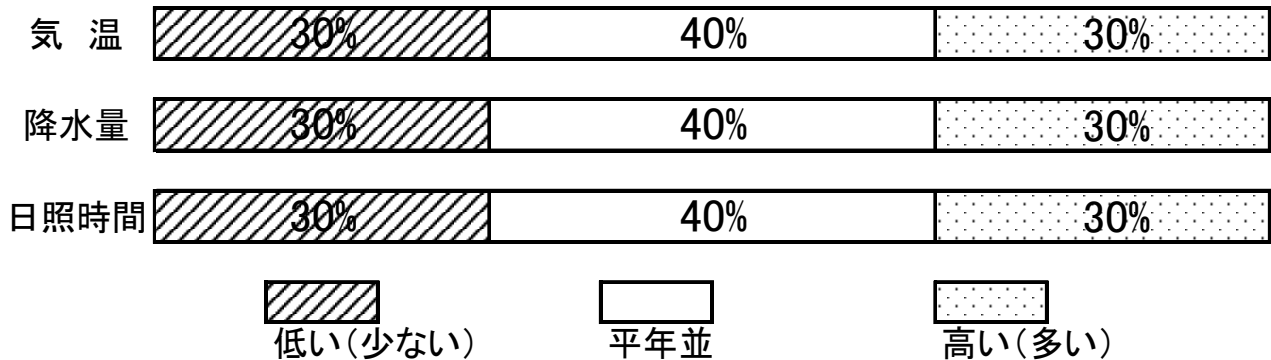
平成26年度 病害虫発生予察情報 発生予報第2号（5月）

平成26年4月30日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
	イネ	うどんこ病	やや少ない
		ヒメトビウンカ	少ない
果樹	ナシ	ニカメイチュウ	平年並
		イネミズゾウムシ	平年並
		黒斑病	平年並
	カキ	黒星病	平年並
		シンクイムシ類	平年並
		ハマキムシ類	やや少ない
野菜	タマネギ	ハダニ類	やや多い
		灰色かび病	やや多い
		かきたアザミウマ	平年並
	イチゴ	ボトリクス属菌による葉枯れ	少ない
		べと病	やや少ない
		腐敗病・軟腐病	やや少ない
	イチゴ	さび病	平年並
		灰色かび病	やや多い
		アブラムシ類	平年並
		ハダニ類	やや多い

中国地方1か月予報(4月26日～5月25日・広島地方气象台4月25日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類 (小さび病、赤さび病)

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月28日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量はほぼ平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月28日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年

- 並みである。
 ②コムギの出穂期以降の気象は本病の感染にやや好適であった。
 ③向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや少ない
 ①4月28日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年に比べてやや少ない。
 ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 少ない
 予報の根拠
 ①予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
 ②4月中旬のすくい取り調査(耕起前)では、捕獲数は0頭/20回振(平年0.3頭)、発生圃場率は0%(平年11.0%)で発生量は平年に比べて少ない。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ(第1世代)

- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯、フェロモントラップへの飛来は、4月第5半旬まで認められない。
 ②前年の第2世代成虫発生量は平年比8.1%で、越冬量は平年に比べやや少ないと
 考えられる。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

- 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
 ②前年の新成虫の誘殺数は平年比92.4%で、越冬量は平年並みと考えられる。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

- 予報内容
 発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①4月24日の巡回調査では発病を確認していない。
 ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

- 予報内容
 発生地方 県内ナシ栽培地帯
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①4月24日の巡回調査では発病を確認していない。
 ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

- 予報内容
 発生地方 県内ナシ栽培地帯
 発生時期 平年並
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ①初飛来日は4月11日で平年並み。
 ②前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並み、越冬量は平年並み
 と考えられる。
 ③フェロモントラップ(安来市)でのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。
 ④向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

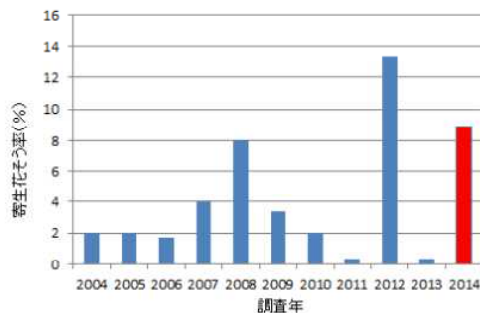
- ①フェロモントラップの初誘殺は4月11日で平年並みである。
②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
②4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は8.9%(平年3.7%)とやや多い。主要種はクワオオハダニである。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



ナシにおけるハダニ類の寄生花そう率の推移

防除上の注意：クワオオハダニに効果がない殺ダニ剤があるので薬剤の選定には注意する。

3) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①4月25日の巡回調査では発病葉率1.5%(平年1.2%)で平年に比べてやや多い。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) カキクダアザミウマ

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
②4月28日の巡回調査では巻葉被害が認められない。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生はみられず(発生圃場率：平年5.91%、発病株率：平年0.11%)、平年に比べて少ない。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率16.7%（平成19.7%）、
発病株率0.06%（平成1.60%）と平成に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率13.3%（平成50.9%）、
発病株率0.51%（平成1.84%）と平成に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) さび病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平成並

予報の根拠

- ①4月下旬の巡回調査で、発生を認めていない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発病葉率25.0%（平成11.6%）、
発病率1.4%（平成0.5%）と平成と比べてやや多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) アブラムシ類

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平成並

予報の根拠

- ①4月下旬の発生量は、発生圃場率22.2%（平成18.0%）、寄生株率2.2%（平成3.0%）
と平成並みである。
- ②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①4月下旬の発生量は、発生圃場率66.7%（平成47.5%）、寄生株率42.2%（平成
21.2%）とやや多い。
- ②4月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に
関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

島根県病害虫防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp